

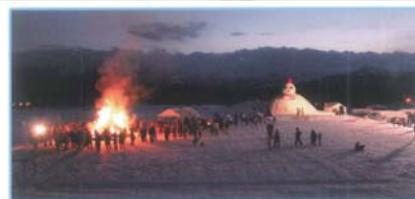
情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

大宜味村教育委員会
電話 44-3006
FAX 44-3029



大地を潤す飯豊連峰



冬の伝統行事 歳の神



平成27年度・大宜味村「西会津町」体験の翼 2016・2・14

雪国の暮らしを肌で感じて知る… 体験の翼交流団西会津町訪問

沖縄でも初雪が観測されたこの冬。本土は、雪国はもっとずっと寒いはず…と、西会津へ出発した今年度の「体験の翼」交流団 19名（児童 13名、引率 6名）。2月12日（金）～15日（月）の3泊4日の旅で、昨年7月に大宜味村で交流した西会津の友だちと久々の再会を果たしました。

こづゆや馬刺し、ラーメンなど地元の味に舌鼓を打ったり、スキーやソリ、雪合戦をして遊んだり、赤べこづくりや起き上がり小法師づくりを体験するなど西会津の友だちと地元ならではの体験をともに楽しみました。

一面真っ白なのに、「今年はあまり雪が積もっていない」と聞いて驚いたり、玄関が二重扉になっていること、屋根が斜めになっていることなど雪国の家の工夫に気がついたり、スキーウェアやスノーブーツ、電気毛布が常備されていることを知ったり、雪国と沖縄の生活の違いを肌で感じる事ができた、体験の翼となりました。



1月31日（日）、大宜味小学校において、学芸会と閉校式が行われました。

恵まれた自然や地域の人たちへの感謝の気持ちを詩や短歌、俳句に込めて「大好きな大宜味」を全児童で群読。

1、2年生は学校探検を通して調べた大宜味小の植物をかわいい歌と劇で元気に紹介してくれました。3、4年生は大宜味校区の方言や独特な言葉について調べ、手作りの紙芝居やショートコントで面白おかしく発表し、会場は笑いに包まれました。5、6年生はお世話になった先輩や記念碑など、インタビューをしたり、調べたりした「大宜味小の人・もの・こと」を発表。

「シマントー物語」では、3年生から6年生が現在の大宜味小学校ができるまでの経緯を劇にして表現。当時のエピソードも加えられており、見ているおじいちゃん、おばあちゃんも昔を懐かしんでいるようでした。最後は全児童でビリーブを合唱。力強い声が会場中に響き渡りました。

昨年度から閉校を意識して取り組んだ生活科や総合的な学習、図工、国語、音楽などのふるさと学習を記念誌「ふるさと」としてまとめ、学習の成果と思い出をお世話になった方々に渡すこともできました



閉校式では児童代表の外園華音さんが「みんなで校歌ダンスを踊った最後の運動会を一生忘れない。先輩方の思い出を受け止めて残り二か月悔いの残らないようにたくさんの思い出を全児童で作っていきたい。」とあいさつし、最後は会場全員で「ふるさと」を斉唱し閉校式典を締めくくりました。

1月31日（日）、津波小学校において、閉校記念学習発表会と閉校式典が行われました。

可愛い踊り子の登場で幕開けし、三線も歌も合奏もダンスも全ての種目に全児童が取り組む津波っ子らしい学習発表会。

歌では、サプライズで沖縄出身の二人組 POPS ユニット Ryuty（リュウティ）が登場!!

突然のことに、児童たちも驚いていましたが、振り付けをしながら、一緒に「つはんちゆぬ宝・世界の友だち」を歌い、会場を盛り上げました。児童を代表して6年生5名が「津波小学校はもうすぐ閉校になります。津波小学校で学んだ事、活動したこと、体験した事など、よかったと自慢できるように、これからも一日一日を大切に過ごし、たくさんの思い出を作っていきたいです。」と挨拶しました。



閉校式ではゼロ番地で作ったスイカやジャガイモ、登校班、星空観察や定置網漁体験、タイヤ鉢のお花、グランドゴルフなど津波小ならではの思い出を全児童で群読。児童たちの真っ直ぐな声に同窓生や地域の方々も思いがこみ上げ涙ぐむ場面も見られました。

会場は津波小学校元用務員の上地里子さんが折った一万羽以上の鶴が「津波小 105年 ありがとう」の文字を作り、給食研究指定校になった年（平成7年度～8年度）に当時の保護者が作った黒板カーテンも飾られ、手作り感満載の津波っらしい閉校式でした。